

昔の思い出(我が故郷は「佐渡ヶ島」)

JJ1SXA/池

私の生家は「佐渡ヶ島」だ、高校卒業までは、島内で暮らしたが、生活拠点が、「佐渡ヶ島」で無くなってから何年になるかと振り返ってみたら、膨大な年月を経ている。

島内で暮らしていた頃は、家から波打際までは、長い砂浜だった、子供の頃夏の日中、家から海に入るのに、途中で一旦立ち止まってからでないと焼けた砂に、裸足の足裏が火傷する感じだった、当然立ち止まる時のため、小さな板切れ等を持って走ったのを思い出す、だが、この砂浜も、浸食されて、今はテトラポットが重なる姿に激変している、悲しい光景になった。

一方山の姿は変わらない、高校時代に授業をさぼって友と良く登っていた、ドンデン山、その後、240の電波伝搬実験で何度登ったことか、その西に見えた、佐渡の最高峰金北山(標高1,172m)山頂の航空自衛隊のレーダーサイトの建物、私が佐渡に居る頃は無かった物だが、また、今は、撤去されて、西隣りの妙見山(標高1,042m)山頂に移転された、金北山の眺めは昔に戻った。

此のレーダーサイトには、弟が航空管制官として勤務していた、生意気に、レーダーサイト横にアマチュア無線のアンテナ(140MHz多エレ多段のスタック)を上げていた、コールサインはJH0UWLだった。(開局時は輪島に勤務していて、JH9のコールサインだった)

勤務は1週間交代、冬季は2週間交代とか言っていたが、冬季は、深い積雪の中を行かなければならず、然も生鮮食品の荷物をかついで行くので大変だと言っていた、現在は、中部航空施設隊第1作業隊佐渡作業班が基地に居て、冬期間は、山頂への勤務交代を安全に実施するため、早朝から除雪をし、雪上車で交代するようです、泉下から、「昔の徒歩での交代は何だったのだ」と弟の溜め息が聞こえるようだ。

この金北山のレーダーサイト横で、モバイルから240で発信する機会を得た、正式に許可を待っていると時間がかかるので、強引に弟の顔パスだった、ただ残念ながら、QSO出来たのは、東京の固定局2局にとどまった、平日ということと、短時間の運用の約束だから致し方無かったが…

この弟も59才で、地域の祭りの準備作業中3m位の梯子の上から転落し、脳挫傷でほとんど即死状態で逝ってしまった、生家に残った大黒柱の死と共に、佐渡への足は止まってしまった、残念だが致し方無しです。

電波伝搬実験で行った最初の頃は、車に取り付けた5/8λのアンテナの同軸ケーブルを付け替えて、宿にしていた山荘の2階の部屋まで延長し、リグを外して持ち込み、持参した安定化電源で運用、「今、炬燵に入って、車に取り付けたモバイルアンテナで運用しています」と言ったら、運用スタイルが直ぐには理解できず、何度か説明しました、まあそうですね、2階の部屋の炬燵に入っているのは分かるが、1階の前庭に駐車した車に取り付けたモバイルアンテナ、それも、5/8λと聞いては、簡単に理解できないのは当たり前でしょう。

それから数年後の移動時は、2階の部屋に続く1階の屋根上に地元のクラブが設置した

ルーフタワーに取り付けたアンテナポールがあり、ローテーターもついていて、ケーブルは部屋に引き込まれ、自由に使って良いとのこと、到着するとすぐ、アンテナを組み立て、ポールにパイプ組み合わせ用の金具をいくつかつけて、足場として6mのポールをよじ登り、アンテナを設置、後は、室内の設置だけ、終われば、すぐに240で発信、待ち構えていた240各局とQSOです。

一段落の後は、入浴、食事、それが済めば、サービス運用です、SSBはSXB、CWはSXAが担当でした、ある時は、窓の外は視界1m位で無線以外には何もやることは無く、明朝のアンテナ撤収ができるか、できない場合は、弟に頼む他無いかと心配したが、翌朝は、台風一過のような晴天、無事アンテナ撤収も終え、伝搬実験に臨みました、勿論モバイルからです。



金北山山頂(ここにドームがあった)



妙見山山頂のレーダードーム



除雪のブルドーザー



交代用の雪上車(昔の苦労は何だった！)

こちらは、ドンデン山荘の最新の様子、場所は変わっていないが大きくなっている



3代目の山荘建物、私は2代目までしか知らない



山荘直下の広場、最初はここにアンテナを立てて運用(左に彎曲する海岸線に実家が)

佐渡の思い出のついでに、佐渡の広報と小自慢です、名調子で「佐渡は居良いか〜住み良いか〜」と有名な浪曲師「寿々木米若」が佐渡情話の冒頭で語る「佐渡おけさ」の一節、「寿々木米若」や「佐渡情話」は知らなくても、「佐渡おけさ」の一節は知らない人はいないでしょう。

そんな「佐渡ヶ島」ですが、北に1,172メートルの金北山を初めとする大佐渡の山地、南は645メートルの大地山をはじめとする小佐渡の山地、中央部に国中平野が広がっています、島の面積は約855平方キロメートル、海岸線は約280キロメートルあり、日本では東京23区や淡路島、海外ではグアム島やプーケット島の約1.5倍の大きさがある、日本海側最大の島だ。

そして、特記すべきは、島内に鉄道は皆無だが、国道(350号線)が走っている、実はこの国道の実現には、陳情を受けた田中角栄が関わっている、だが、そう簡単なものでは無かった、離島内で完結する道路は道路法5条1号の「都道府県庁所在地その他政治上、経済上又は文化上特に重要な都市を連絡する道路」という一般国道の指定要件が阻んだのだ、そこで、田中が新潟市と佐渡島、佐渡島と上越市の間の航路も区間に含め、形式上新潟市と上越市を結ぶ路線とすることで道路法5条の要件を満たすという方法を考案し、1975年に国道指定を果たした。

ということで、新潟市の「新潟港」から佐渡市の「両津港」までは海上、そして「両津港」から「小木港」まで島内の陸路を走り、再び、「小木港」から上越市の「直江津港」までを海上で結んでいる。(総延長163.2 km…陸上区間51.6 km、海上区間111.6 km)

流刑地に定められた佐渡は、722年に皇室批判を行った万葉歌人の「穂積朝臣」を始めとして、1221年に承久の乱で敗れた「順徳上皇」、1271年に鎌倉幕府や他教を批判した「日蓮聖人」、1434年に時の将軍の怒りを買った能楽の大成者である「世阿弥」など、政争に敗れた貴族や知識人が流されてきた、江戸無宿人は金山に放り込まれて一生を終え、重罪の犯罪者は、伊豆七島へ送られています、そのため、佐渡には犯罪者の子孫はいません。

後は、トキの話題です、森林や農地が大切にされた佐渡は、国際保護鳥に指定されているトキが日本で最後まで生息した場所でもありますが 日本トキは2003年に絶滅して

しまい、今は、1999年に中国から贈られたトキの人工繁殖で育ったトキが放鳥されています。

伝統文化として上げられるものは数多くありますが、先ず、「能楽」です、最も盛んだった時代には200以上の能舞台があったといわれ、今でも30以上の能舞台が残されており、日本の能舞台の3分の1に相当するということで、凄いなと思っています。

次に上げたいのが、鬼太鼓(おんでこ)です、その年の五穀豊穡や大漁、家内安全を祈りながら集落の家々の厄を払うもので、島内の多くの祭礼で舞われる佐渡にしかない代表的な伝統芸能で、島内には約120地区の鬼太鼓があるとされています、今は変わりましたが、私の地区では、長男が、鬼太鼓の鬼を舞うという習わしがありました、佐渡を早く離れた私は、長男でありながら、その機を逸しました、今となると一寸残念です。

「佐渡はいよいよか 住みよいか…」と歌われていますが、住みよいとは思いませんが、我が故郷は良い所です、石川啄木が詠うように「故郷は遠くにありて想うもの」です。



国道標識



真野御陵(御遺骨は(崩御翌年京都へ)



鬼太鼓



神社境内に能舞台
(音響用の甕が床下に埋まる)



朱鷺(残念ながら、佐渡の朱鷺は絶滅)